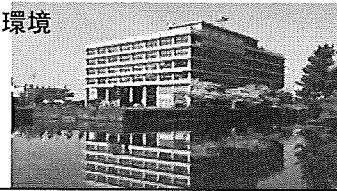


原始古代から見る松江成立の基盤

平成29年8月19日
松江市史講座第119回
丹羽野 裕

1. 松江市のいま

- (1) 地方行政の中心地(県庁所在地)
- (2) 地域経済の中心地
- (3) 地理的・自然的環境



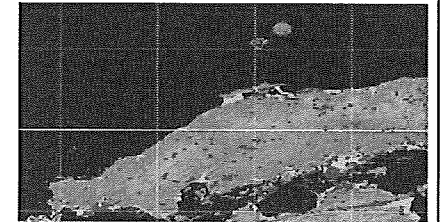
2. 本講座の主題(結論)

- (1) 松江市周辺は、原始古代から一貫して地域の中心地であった。
ホモサピエンスが日本列島にやってきて、まもなくからその歴史は始まる。
- (2) その大きな要因は、水陸交通の要所であったことにある。
- (3) それは松江市周辺の地形形成や地勢的な要因に負うところが大きい。

3. 旧石器時代の松江周辺

(1) 中国地方の遺跡分布

- ① 畿内というと、沿岸部と中国山間地の台地的地形、段丘地形部分に遺跡が多い。



(1) 地方行政の中心地(県庁所在地)

① 県庁が所在する直近の理由

島根県が成立した時(廃藩置県)、最も大きな藩の城下町であった。

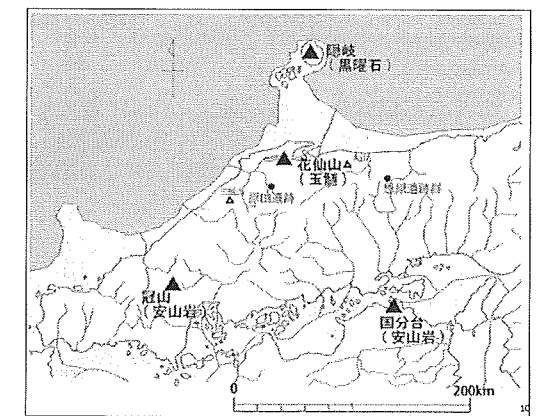


(2) 地域経済の中心地

- ・ 松江市は山陰地方の拠点都市の1つであり、鳥取県の米子市と共に鳥取・島根両県を統括する支店が多く置かれているほか山陰地域で展開する企業の本社も多い。(ウィキペディア)

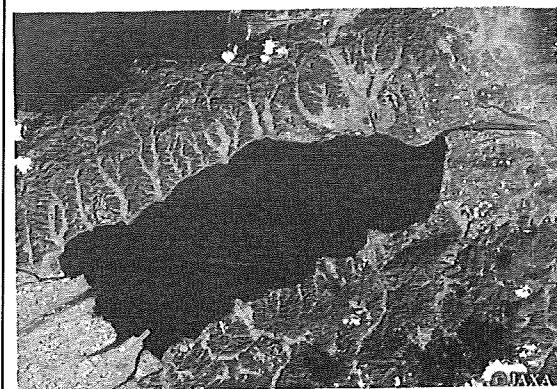
- ② 主要な道具である石器の材料の産出地が、人間の行動に大きな影響を与える。
- ③ 中国地方の主要な石材産地

- ・ 〇黒曜石...隠岐
- ・ 〇サヌカイト(安山岩の一種)...香川県五色台周辺
- ・ 〇安山岩...広島県冠山
- ・ 〇補完石材...各地にあるが、多く使われているのが松江市玉湯町の花仙山の玉髓



(3) 地理的・自然的環境

- ・ ① 市街地の東西に大きな湖(中海・宍道湖)があり、両湖をつないで大橋川が流れる。
- ・ ② 大橋川を挟んで南北に平野が広がり、市街地は南北に分断。
- ・ ③ 宍道湖には斐伊川が流れ込み、中海から日本海に流れ出る。
- ・ ④ 北側には北山山系の山々が連なり、南側は中国山地に連なる山塊が広がる。
- ・ ⑤ 北山の北部は日本海に面している。



(2) 松江周辺の地形

① 当時の気候と地形

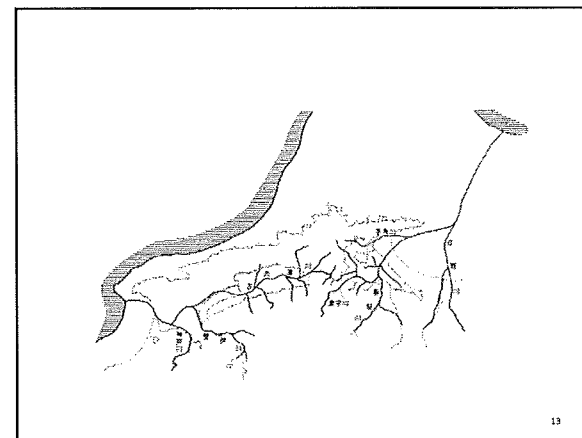
② 後期旧石器人の生活と松江周辺の地勢

③ 遊動の交差点の一つ

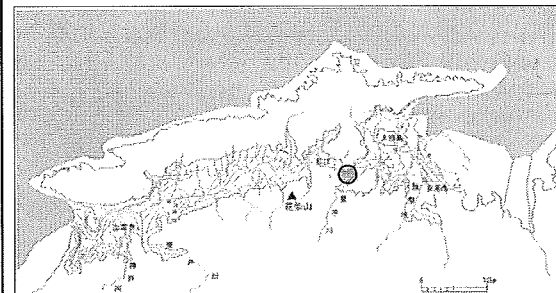
④ 補完石材産地の存在

① 当時の気候と地形

- ・ 〇約38,000～16,500年前の後期旧石器時代は、最終氷期にあたる。
- ・ 〇最大で約130m海面が下がっていた。
- ・ 〇島根半島は隠岐までつながっていた時期もあり、松江周辺の地形は全く異なっていた。
- ・ 〇中海・宍道湖はなく、矢田の渡しから塩桶島付近を分水嶺にして、東西に川が流れて谷を形成していた。
- ・ 〇川沿いには、第四紀に形成された段丘の平坦面が数段存在していた。

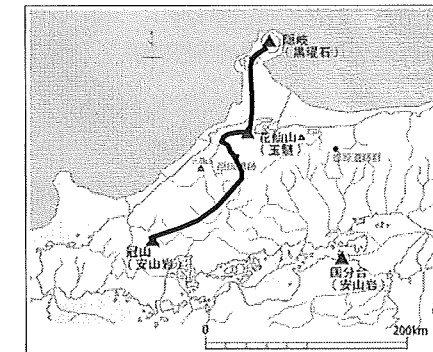


縄文時代草創期頃(約15,000年前)の地形復元

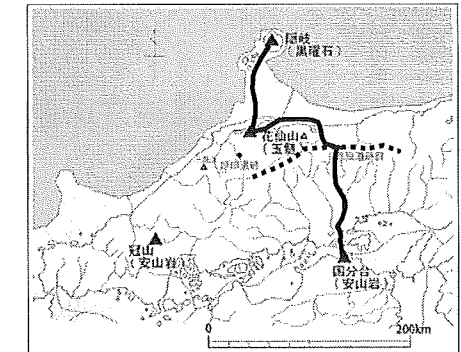


中海・央道湖はなく、矢田の渡しから塩桶島付近を分水嶺にして、東西に川が流れて谷を形成していた。

原田遺跡7層、5層1群から見える遊動ルート(イメージ)

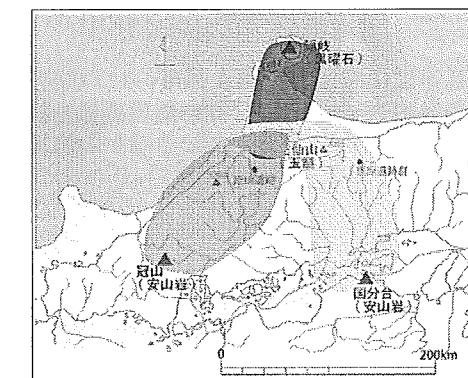
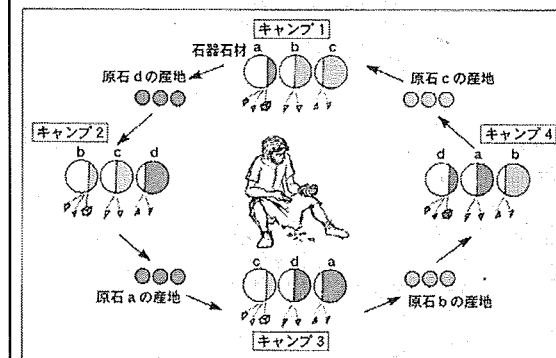


恩原遺跡群Ⅱ期～Ⅲ期から見える遊動ルート(イメージ)



②後期旧石器人の生活と松江周辺の地勢

- 後期旧石器時代の人々は、一か所に留まって生活していた(定住)のではなく、狩猟対象中の異動などに連動して、移動しながら生活(遊動)していた。
- 誘導ルートのポイントは、石器石材の獲得で、隠岐の黒曜石は最高の石材。



中国地方の主要遊動路概念図



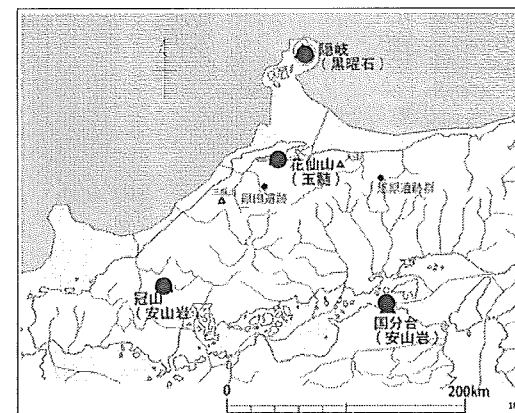
松江周辺の遊動ルート

○隠岐へ行くためのルートいろいろ想定されるが、尾根筋をたどる脊梁ルートも有望なライン。
※松江市矢田付近が隠岐へ向かう唯一の脊梁ライン

○川筋をたどるのも有望なルート

- ※東へは日野川につながる川が流れ、中国山地東部へ向かうルートの起点
- 西には斐伊川につながる川が流れ、中国山地西部に向かうルートの起点

○現玉湯町の花仙山産玉髓を補完石材として重用



③遊動の交差点の一つ

- 石材産地を遊動経路に組み込んで生活していた後期旧石器人にとって、松江周辺は隠岐へ向かう経路の交差点であった。

④補完石材産地の存在

- 松江市花仙山周辺で産出する玉髓、瑪瑙は重要な補完的石材
- 移動経路の中で重要な寄り道地点

4. 縄文～弥生時代の松江周辺

- (1)松江周辺の地形
- (2)縄文時代の松江周辺
- (3)弥生時代の松江周辺